

コロナ禍の中の小さなふれあい

2月末からの活動自粛の中、6月24日「あかしあこども園」の園児たちがたなばたの飾りを届けてくれました。感染予防のため玄関先での受け渡しになりました。

例年であれば、入所している方たちと子供たちで飾り付けをしたり、一緒に遊んだりして楽しく過ごしますが、今年はおたがいになづくことも話をすることも何もできません。

小さな手での肩たたきや、「いくつなの?」「どこから来たの?」などの語らいは、家族と離れて暮らす入所者には、孫やひ孫が訪ねてくれたような喜びになっていました。

園児の中には職員の子供さんもいて、「ママ、お仕事がんばってね!」と、大きな声で手をふっていました。

「おじいちゃん、おばあちゃん元気だね。」と、バスの中から小さな手を振り帰っていく子供たちに、いつまでも手を振り続けるお年寄りの中には、感激して泣いてしまう方もいました。

子供たちが作ってくれた飾りと、入所者それぞれが書いた「長生きしたい」「みんなが幸せに」の短冊を、新型コロナの終息を願い、皆の健康を祈りながら飾り付けました。

藍園長先生・職員の皆様、ばらぐみの皆さんありがとうございました。

